

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
老年看護学概論	1 単位(30)	1 年次 7 月	* 講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 高齢社会の特徴とライフサイクルにおける老年期の特徴が理解できる。
- 2 加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化、高齢者の健康の概念が理解できる。
- 3 高齢者の保健・医療・福祉施策の現状と課題が理解できる。
- 4 老年看護の基本的考え方が理解できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
老年期の理解	1 高齢社会の特徴が理解できる	1 高齢社会の人口学的特徴 < 2回4 h > 1) 高齢者人口の推移 2) 高齢化率の推移 3) 平均寿命の推移 4) 前期・後期高齢者人口の年代別構成 5) 性差 6) 地域格差	
	2 ライフサイクルにおける老年期の位置づけと特徴が理解できる	1 高齢者の理解の基本となる概念 < 1回2 h > 1) 老年期と発達・変化 2) 高齢者の生活の質の保障 3) 加齢への適応 4) 高齢者のいる家族の変化 2 高齢者の生活 < 1回2 h > 1) 高齢者の機能と評価 2) 高齢者の生活に関する保健医療福祉制度 3) その人らしい生活の継続	
高齢者の健康	3 加齢に伴う身体・精神・社会的変化とその特徴が理解できる	1 高齢者の健康 < 2回4 h > 1) 高齢者の健康と疾病 2) 加齢に伴う身体機能の変化 3) 加齢に伴う認知機能の変化 4) 加齢に伴う心理・社会的変化 5) セクシュアリティの変化 2 健康の維持と介護予防	【校内演習】 < 1回2 h > 高齢者疑似体験
高齢者と家族	4 高齢者と家族の理解と問題が理解できる	1 高齢者の家族の健康と生活への影響 < 1回2 h > 2 家族全体への影響と介護への適応	
介護保険・医療保険と老年看護	5 保健医療福祉制度の変革の中で変化する老年看護の役割が理解できる	1 高齢者に関する保健医療福祉の変遷 < 2回4 h > 2 介護保険施設に入所する高齢者の暮らしと看護 3 地域密着型サービス、居宅サービスを利用する高齢者の暮らしと看護 4 生活の場の移動と看護の継続 1) 長期入所高齢者の看護 2) 福祉用具・介護用品の活用 5 看護と介護の協働と連携 1) 多職種連携、チームアプローチ 6 高齢者に特徴的な災害時の看護	【臨地講義】 < 2回4 h > 特別養護老人ホーム
老年看護の基本	6 老年看護の基本的考え方と倫理的課題が理解できる	1 老年看護における概念の活用 < 2回4 h > 2 老年看護の倫理 1) 高齢者差別、虐待の防止 2) 安全確保と身体拘束 3) アドボカシーと意思決定支援 3 老年看護の特徴	【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
高齢者の健康障害時の看護	1単位 (30)	2年次5月	*講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 高齢者に多い疾患の理解と健康障害に応じた看護について理解できる。
- 2 人生の終焉を迎える高齢者の看護について理解できる。

単元	目標	内 容	備 考
高齢者に特徴的な疾患と看護	1 疾患をもつ高齢者への看護が理解できる	1 高齢者に特徴的な疾患と看護 <4回8h> 1) 廃用性症候群(褥瘡含む) <*1回2h> 2) 慢性期の看護: 慢性閉塞性肺疾患 パーキンソン病の看護 心不全 3) 感染症 2 高齢者に特徴的な症状と看護 1) 起立・歩行障害 2) 感覚機能障害 3) 脱水・浮腫 4) 摂食・嚥下障害 5) 低栄養 6) 痛み 7) 皮膚掻痒症 8) 尿失禁 9) 寝たきり 10) 不眠	デザインスケール 評価の実際 *時間は認定看護師による講義
主な治療・検査時の高齢者の看護	2 認知症の高齢者の看護が理解できる	1 認知症の高齢者の支援 <1回2h><*1回2h> 1) 認知症と社会制度 2) 認知症の予防 3) 認知症の高齢者への看護 (1) うつ (2) せん妄	
	3 治療・検査を受ける高齢者の看護が理解できる	1 高齢者の療養生活の支援 <2回4h><*1回2h> 1) 手術療法を受ける高齢者への看護 2) 薬物療法を受ける高齢者への看護 3) 高齢者のリハビリテーション看護 4) 受療形態に応じた高齢者への看護 5) 地域連携における退院時の看護 6) 療養生活の場の特徴と看護	
高齢者の尊厳を支える看護と看取り、家族の支援	4 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア	1 高齢者の尊厳を支える看護 <2回4h> 2 高齢者の尊厳を支える看取り 3 家族、介護者の生活支援 4 終末期の家族支援	
			【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
高齢者の 看護過程	1 単位(15)	2 年次 4 月	専任教員 (実務経験のある教員等)	1 5 (1 5)

科目目標

1 高齢者の特徴を踏まえ看護過程が展開できる。

単 元	目 標	内 容	備 考
高齢者の看護過程	<p>1 健康障害のある高齢者の特徴をふまえて看護過程の展開ができる</p> <p>2 退院に向けての援助が理解できる</p>	<p>1 高齢者の看護過程の特徴・アセスメントの視点 < 6 回 1 2 h ></p> <p>1) 加齢に伴う身体・精神・社会的特徴</p> <p>2) 生活行動モデル：生活機能の視点 (日常生活を支える基本動作)</p> <p>3) 目標指向型思考：強みの視点</p> <p>4) 高齢者の健康の段階に応じた看護</p> <p>(1) 健康の維持と介護予防</p> <p>(2) 急性期</p> <p>(3) 慢性期</p> <p>(4) 回復期</p> <p>(5) エンドオブライフケア</p> <p>2 事例を用いた健康障害のある高齢者の看護過程の展開</p> <p>1) 入院による影響（疾患・治療）と高齢者の特徴をふまえたアセスメント</p> <p>(1) 疾患の経過・治療</p> <p>(2) 加齢に伴う身体・精神・社会的変化</p> <p>(3) 生活機能への影響</p> <p>(4) 生活習慣・価値観・信念</p> <p>(5) 家族背景や対象を支える人々</p> <p>2) アセスメントに基づいた看護介入</p> <p>(1) 対象の価値観・信念・生活習慣をふまえた援助</p> <p>(2) 生活機能、その人の望む生活を考慮した介入</p> <p>(3) 日常生活行動の自立、残存機能の維持に向けた援助</p> <p>(4) 回復意欲の維持・向上のための援助</p> <p>(5) 運動・感覚機能、危険回避能力が低下した高齢者への援助(安全・安楽)</p> <p>(6) 環境適応、調整への援助</p> <p>(7) セルフケア能力の維持・向上に向けた援助</p> <p>(8) 家族支援への介入</p> <p>1 退院に向けての援助 < 1 回 2 h ></p> <p>1) 退院調整・支援への援助</p> <p>2 介護する家族への看護</p> <p>1) 家族介護状況の把握と分析</p> <p>2) 援助対象としての家族の視点と看護</p> <p>3) 介護力の評価</p> <p>4) 介護への適応のための看護</p>	<p>ゴードンの機能的健康パターンを用いる</p> <p>【事例】 後期高齢者の回復期の事例を用いて展開する</p> <p>【評価】 筆記試験 (1 h)</p>